

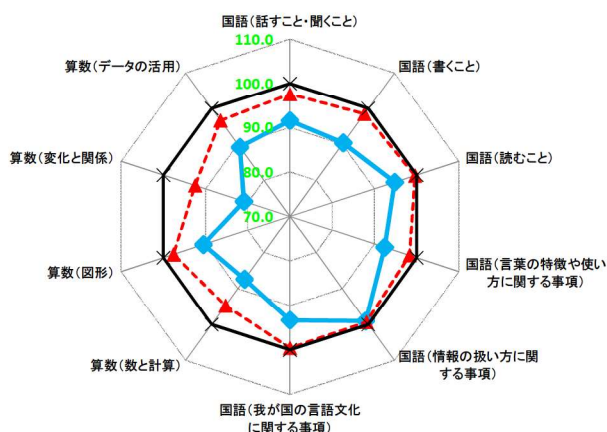
■北見市内の状況及び学力向上策（小学校数:23校、児童数:756人）（中学校数:14校、生徒数:735人）

【教科全体の状況】

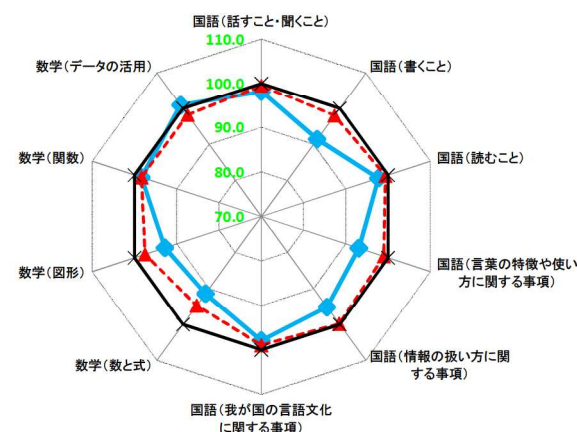
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	56
算数・数学	56	51

小学校

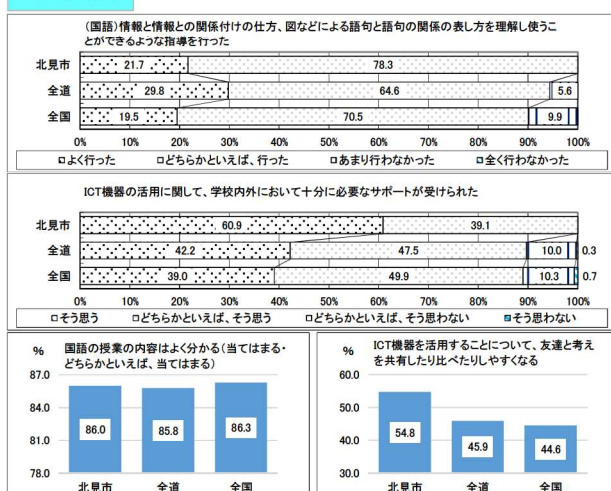


中学校

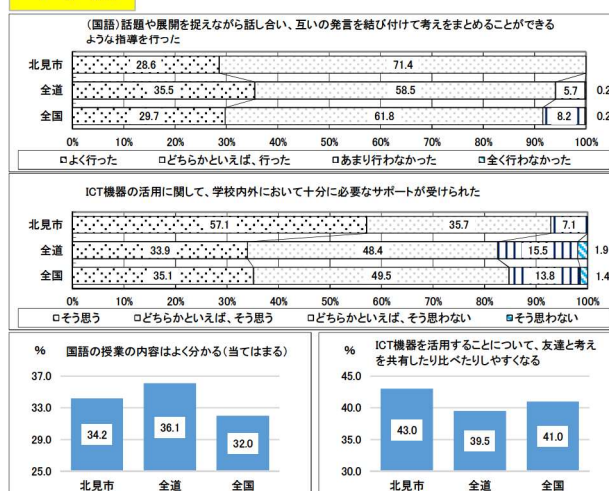


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した児童の割合が、全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

ICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられたことにより、授業改善が図られ、ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

ICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられたことにより、授業改善が図られ、ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北見市の学力向上策】

- ◎ 「北見市学力向上3つのスタンダード」(学習環境をつくる・指導技術をみがく・指導方法を工夫する)の取組の推進
- ◎ 端末を活用した子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業の実践
- ◎ 教職員の授業力・指導力向上に向けた指導力向上推進事業等の研修会の実施
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活環境づくりの取組の推進

【Webページ】



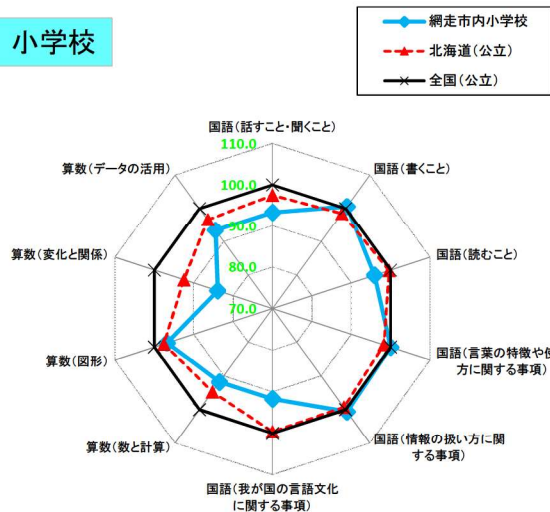
■網走市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：215人）（中学校数：6校、生徒数：228人）

【教科全体の状況】

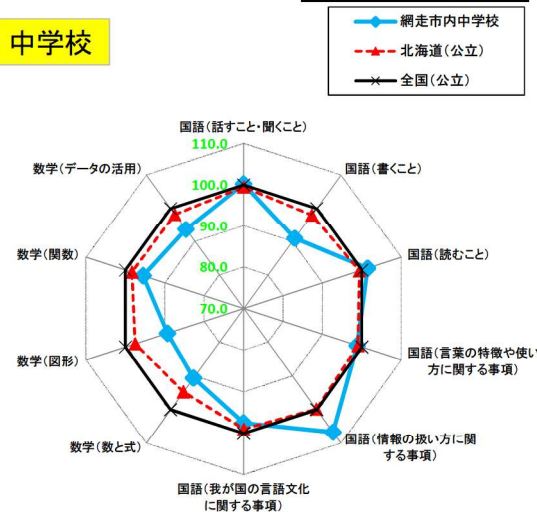
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	58
算数・数学	58	49

小学校

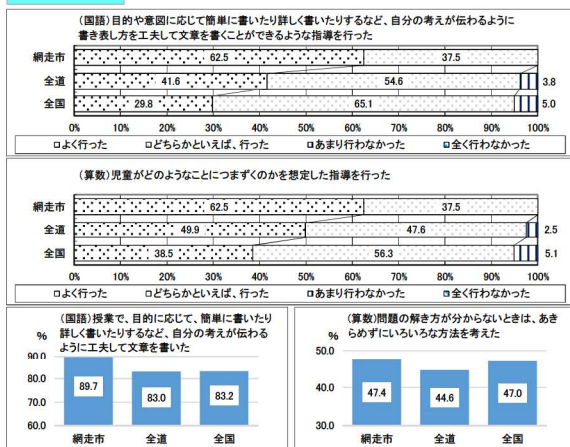


中学校

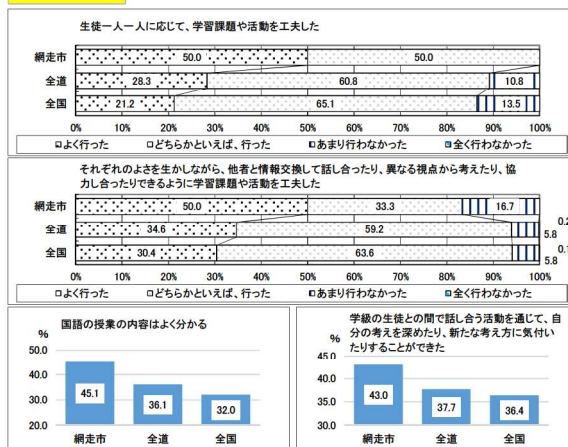


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えた回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

授業において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方の事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【網走市の学力向上策】

- ◎ 市内全校の公開研究会の実施及び各研究会や研修会への教職員の参加、学力フォーラムの実施等による指導方法工夫改善の全体化
- ◎ 基礎・基本の定着に向けた算数科・数学科における学習支援員の配置による少人数指導や補習学習の実施
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための生活リズムチェックシートの積極的な活用
- ◎ 1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研究及び研修会等の実施
- ◎ 授業改善に向け、道内外から教育研究者を講師として招聘した市内小・中学校における研究会の実施

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

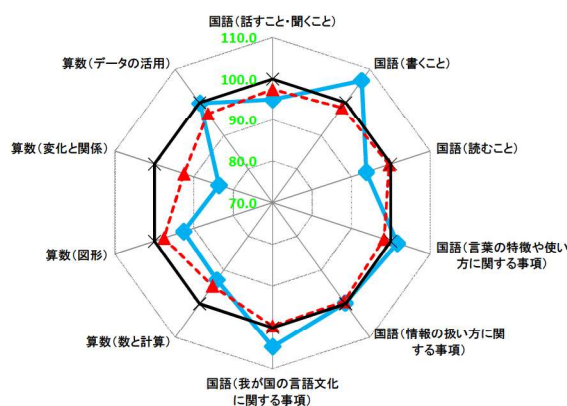
■紋別市内の状況及び学力向上策（小学校数：5校、児童数：105人）（中学校数：3校、生徒数：96人）

【教科全体の状況】

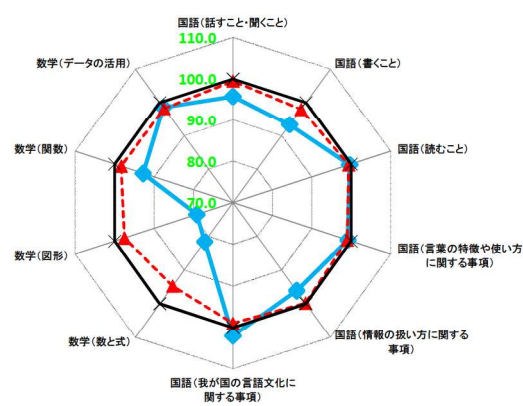
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	57
算数・数学	59	47

小学校

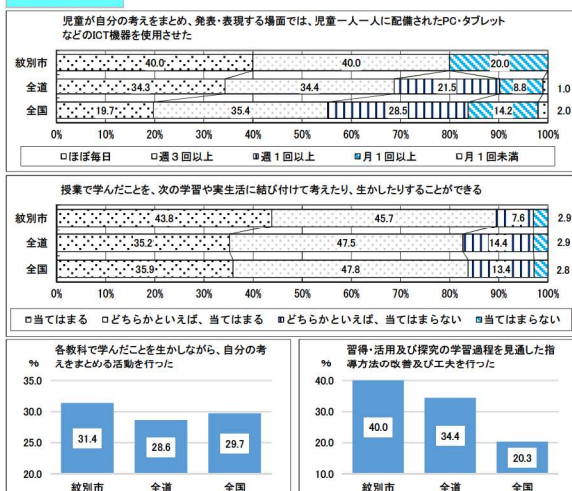


中学校

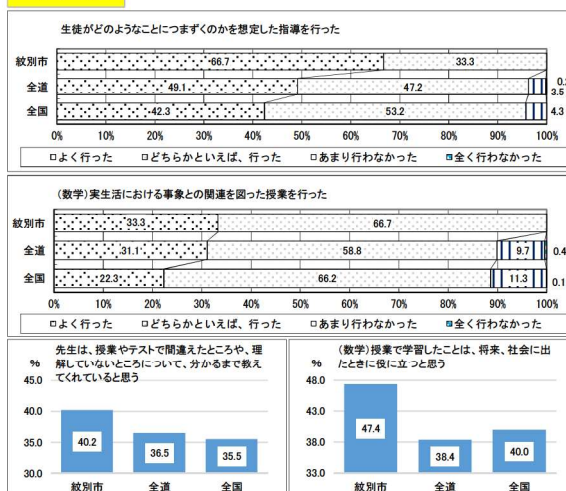


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童が自分の考えをまとめ、発表する場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に活用したことにより、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【紋別市の学力向上策】

- ◎ 「紋別市教育向上プロジェクト(MKP)会議」による学力向上・GIGAスクールに関する小中連携の推進
- ◎ 職員研修事業（「MKP研修シリーズ」「MKPフォーラム」他）の実施
- ◎ 学校図書館司書の全校配置（一部常駐）、学校図書充実による学校図書館の活用促進
- ◎ 学力知能状況調査事業による全学年の学力等の分析
- ◎ 電子黒板等の導入によるICT環境の整備と1人1台端末の効果的な活用の推進
- ◎ 教育委員会、市広報による住民、地域の学力に関する意識の醸成

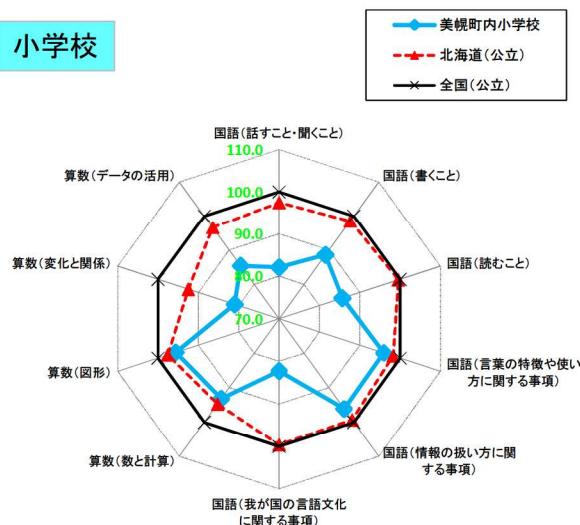
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:127人）（中学校数:2校、生徒数:123人）

【教科全体の状況】

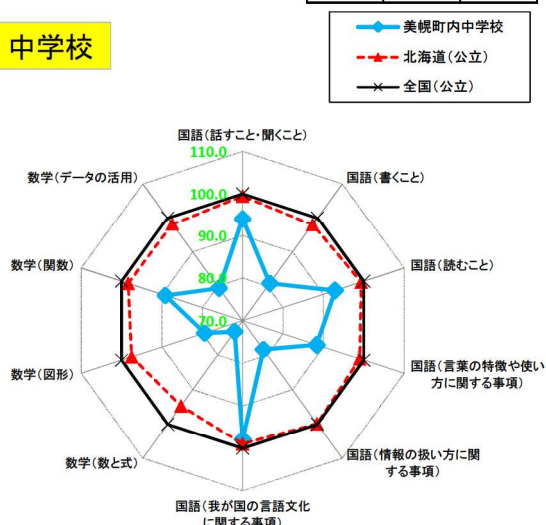
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	52
算数・数学	58	42

小学校

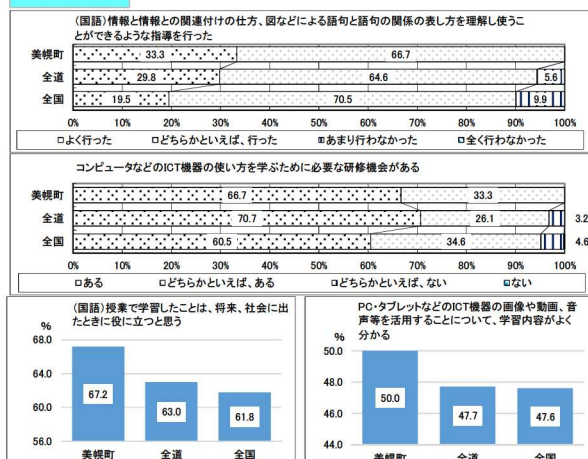


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

町内において、コンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を充実させたことにより、授業改善が図られ、PC・タブレットなどのICT機器の活用について、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学では、「関数」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

【美幌町の学力向上策】

- ◎ 「読書の大切さ」を家庭に啓蒙するとともに、図書館と連携し「読書好き」な子を育成する取組の推進
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための小中一貫した「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用の促進
- ◎ 若手・中堅教職員の授業力・指導力向上に向けたICTを活用した研修会や公開研究会の実施

【Webページ】



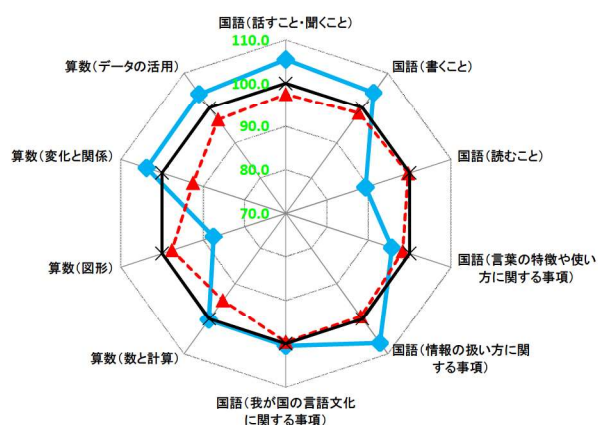
(R6.11掲載予定)

■津別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:28人）（中学校数:1校、生徒数:31人）

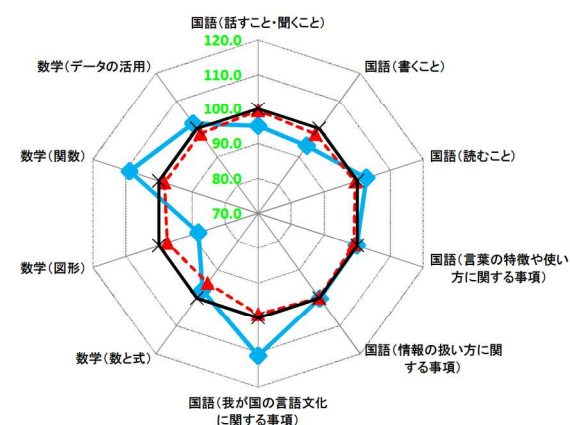
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

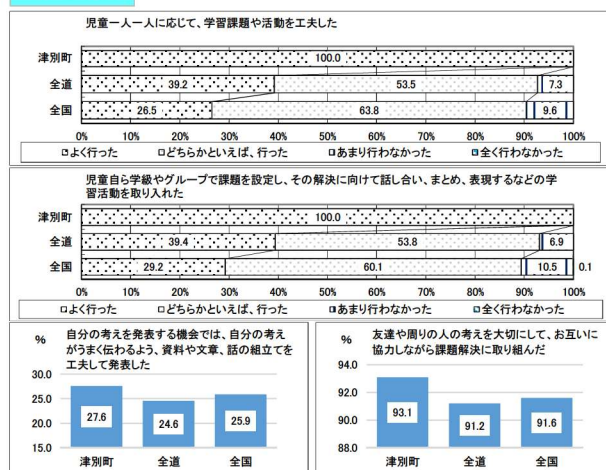


中学校

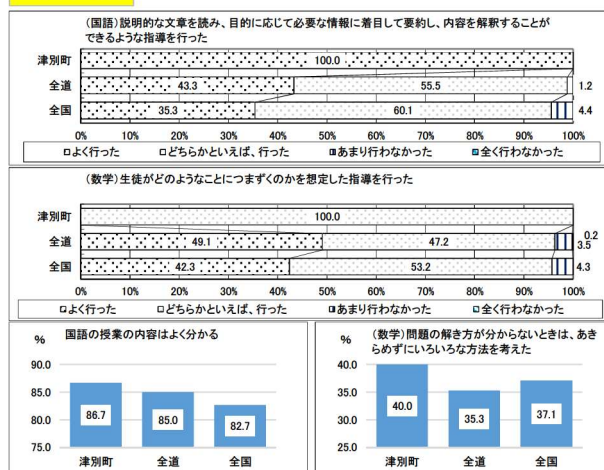


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題解決に取り組んだと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「変化と関係」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かる肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【津別町の学力向上策】

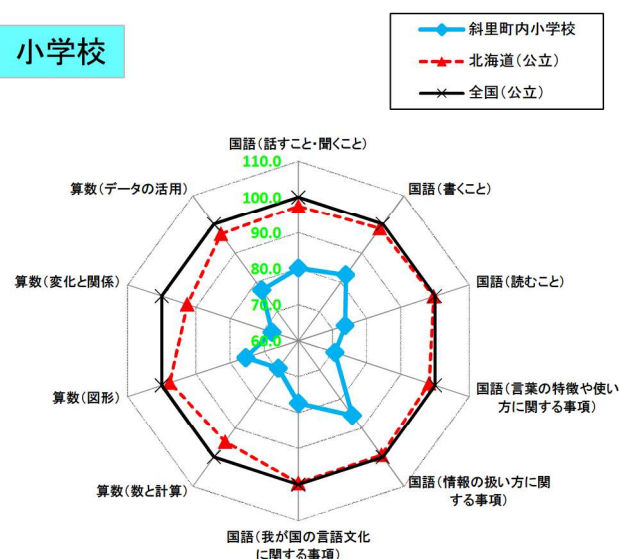
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進
- ◎ ICT教育環境の整備
- ◎ 学校図書館の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化の推進

■斜里町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:78人）（中学校数:2校、生徒数:78人）

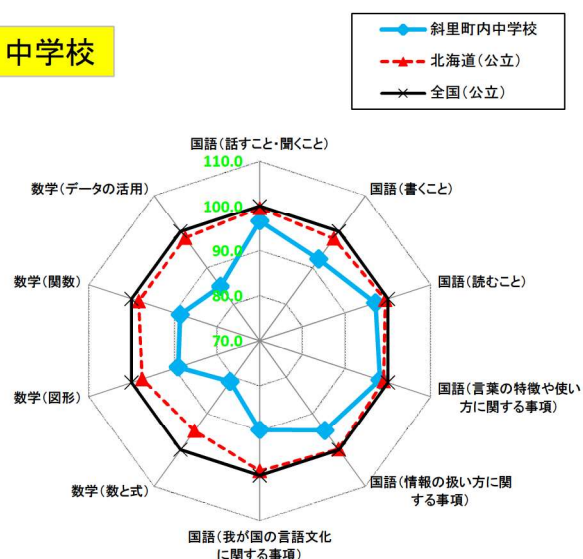
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

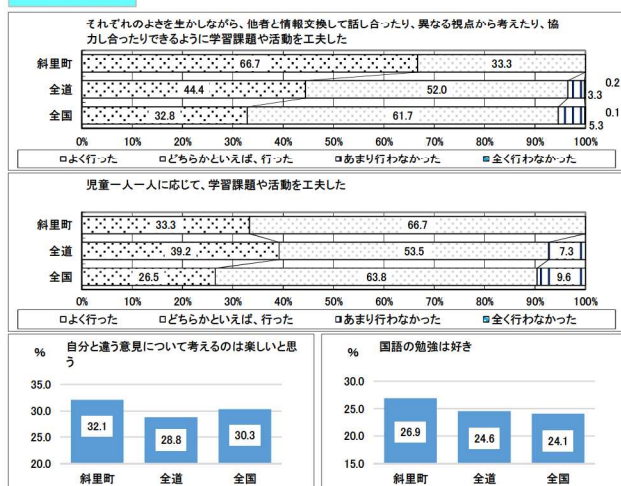


中学校

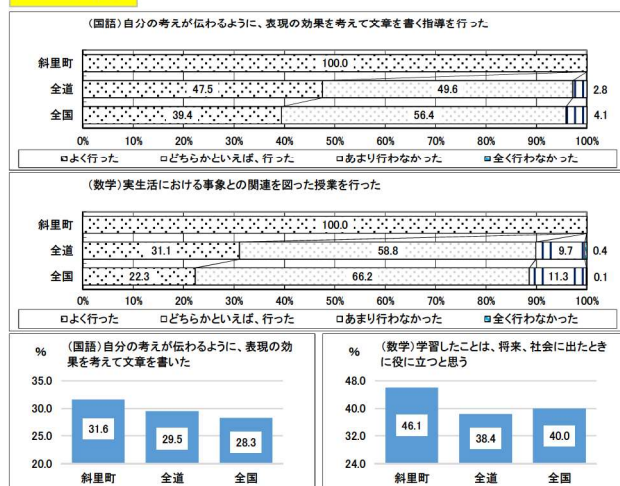


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、適切な指導を行ったことにより、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【斜里町の学力向上策】

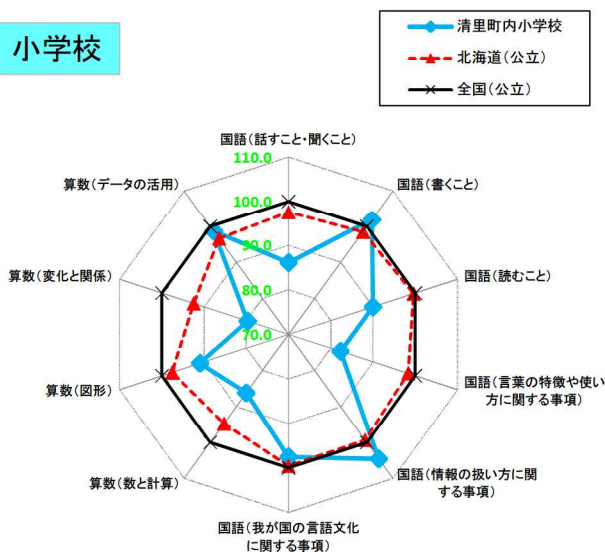
- ◎ 義務教育学校における小中一貫教育及び中学校を軸とした小中連携の充実
- ◎ 町内全校における、特色ある学校づくりを支援する校長提案型事業の実施
- ◎ 1人1台端末などICT機器を積極的に活用した授業改善の推進
- ◎ 教育活動支援講師の配置と放課後や長期休業中の学び直しの機会の提供等、きめ細かな学習環境の整備
- ◎ 学習習慣や生活習慣の定着を目指した土曜授業の実施

■清里町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:33人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

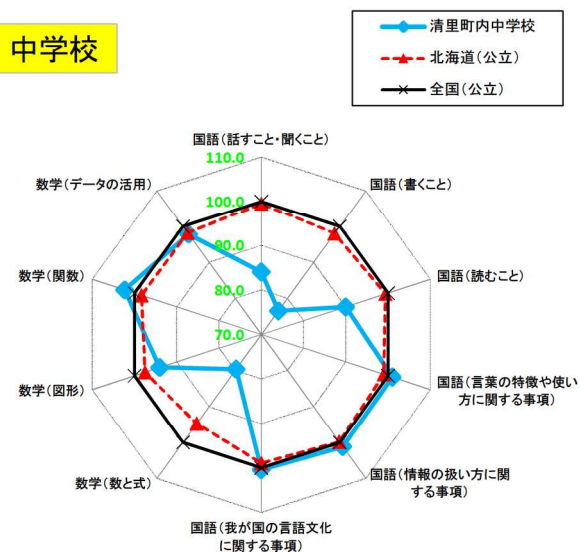
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

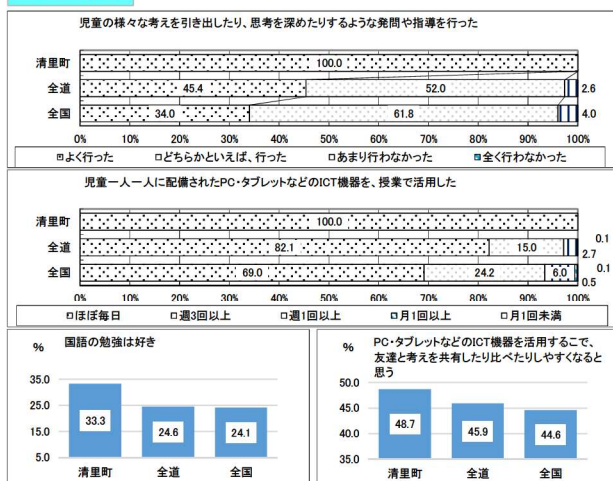


中学校

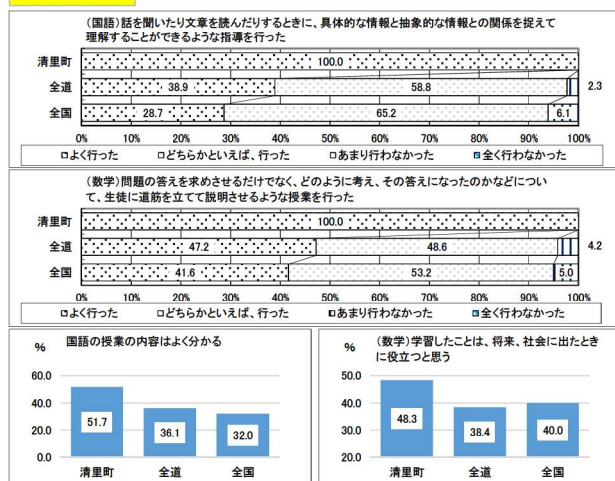


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用したことにより、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような活動を行ったことにより、学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【清里町の学力向上策】

- ◎ 個別支援や習熟度別指導のための支援員の配置
- ◎ 小中高の連携による長期休業中の補的な学習サポート教室の実施
- ◎ 小中高への外国人英語講師の派遣
- ◎ ICT機器を活用した効果的な授業改善を推進するために、大型掲示装置（プロジェクター、大型テレビなど）の設置

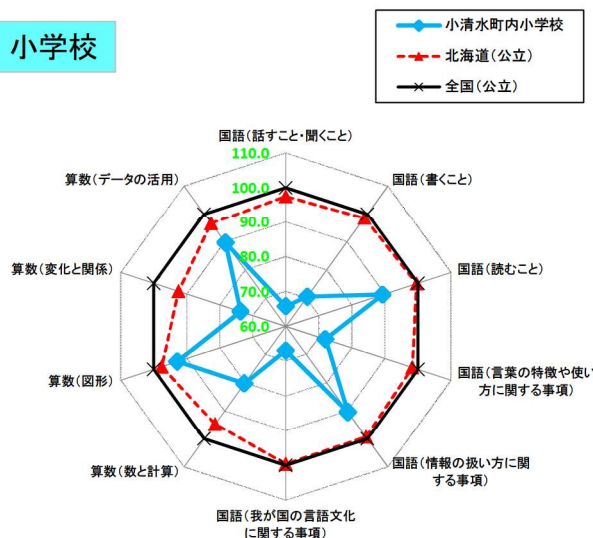
■小清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:28人）（中学校数:1校、生徒数:34人）

【教科全体の状況】

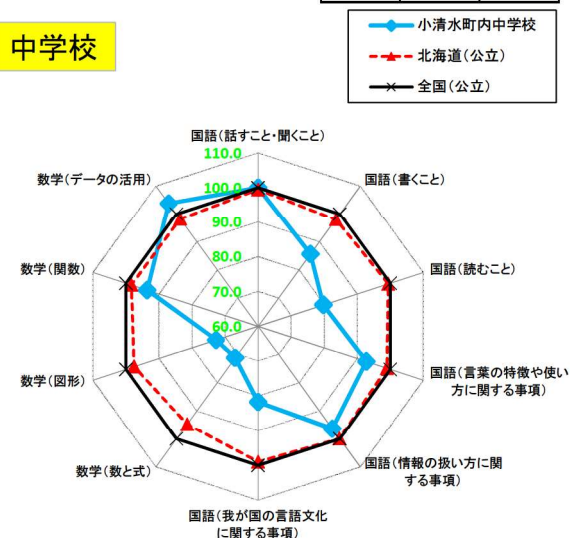
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	51	52
算数・数学	53	45

小学校

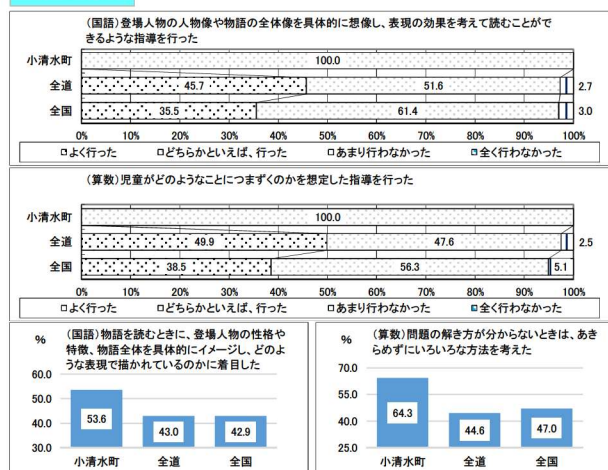


中学校

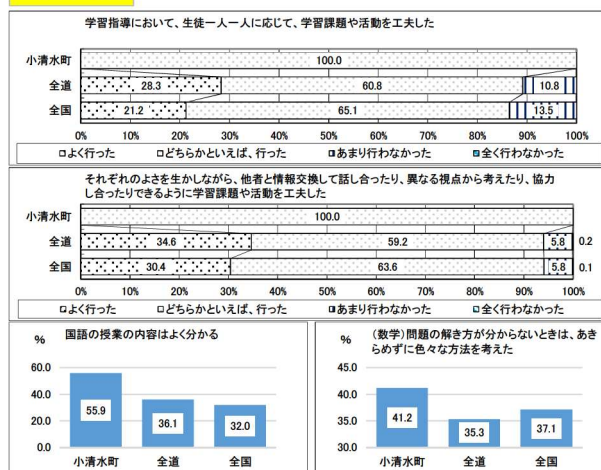


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えたという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

授業において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国と同じで全道を上回ったと考えられる。

授業において、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずに色々な方法を考えたという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【小清水町の学力向上策】

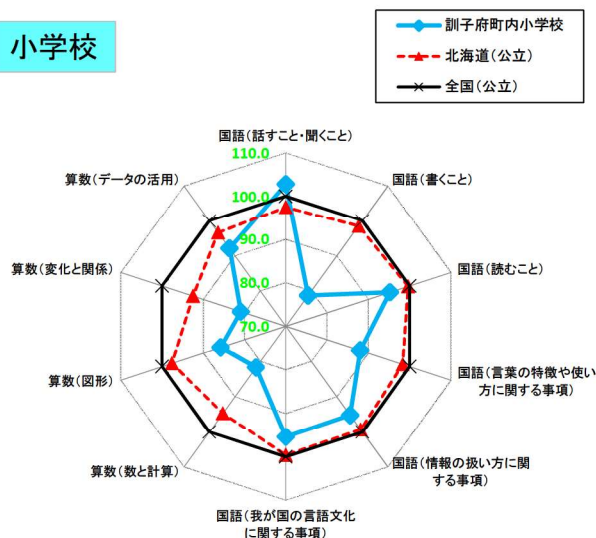
- ◎ 小中合同研修、小中相互授業参観等による指導方法の共通理解と接続
- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成と実践
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

■訓子府町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:52人）（中学校数:1校、生徒数:33人）

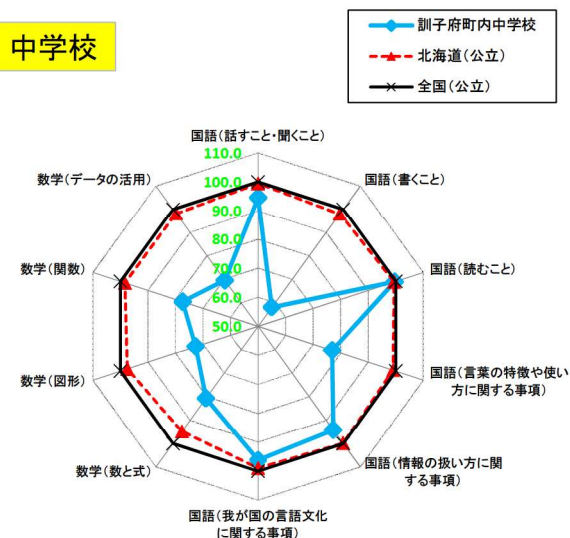
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

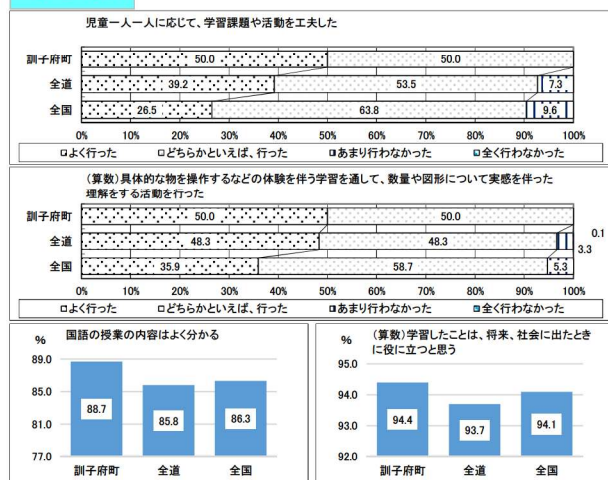


中学校

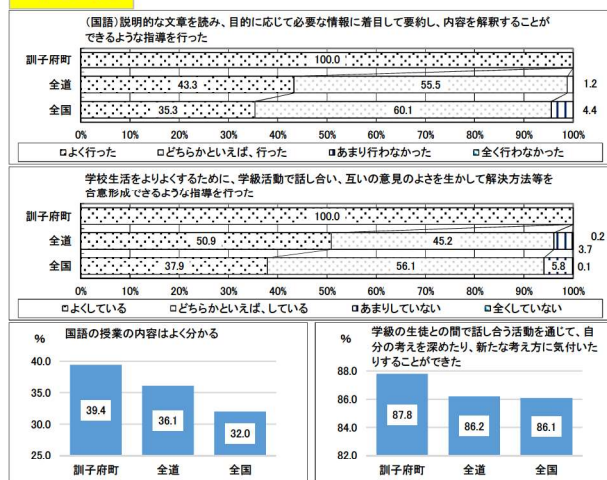


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に注目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

学校生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【訓子府町の学力向上策】

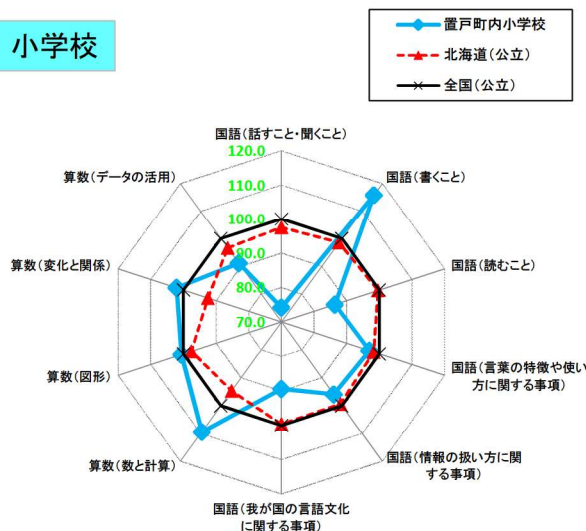
- ◎ 町負担臨時講師を活用したチーム・ティーチングや習熟度別少人数指導の充実
- ◎ 算数専科の加配教諭による指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの継続的な実施
- ◎ 児童生徒の読書意欲の向上を図る図書室の整備と蔵書数の充実
- ◎ 地域の多様な人材や施設などの地域資源を生かした教育の充実
- ◎ タブレット端末等のICTを活用した学びを深める授業の充実と家庭学習の充実

■置戸町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：12人）（中学校数：1校、生徒数：12人）

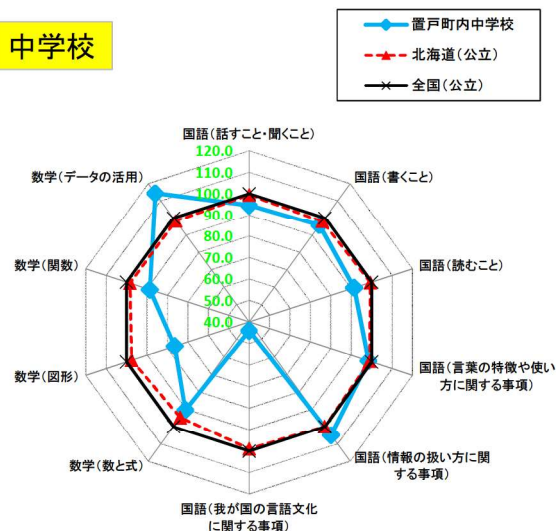
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

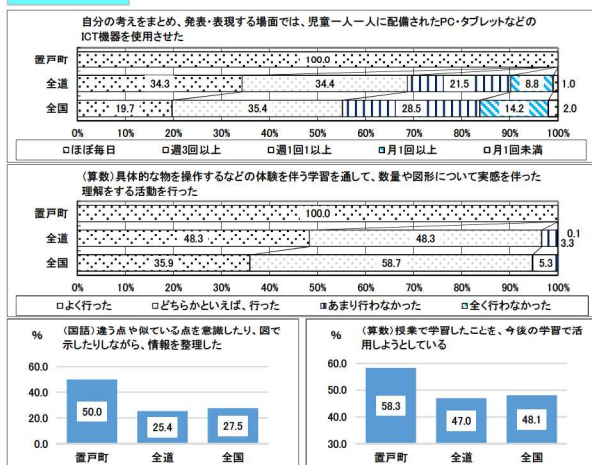


中学校

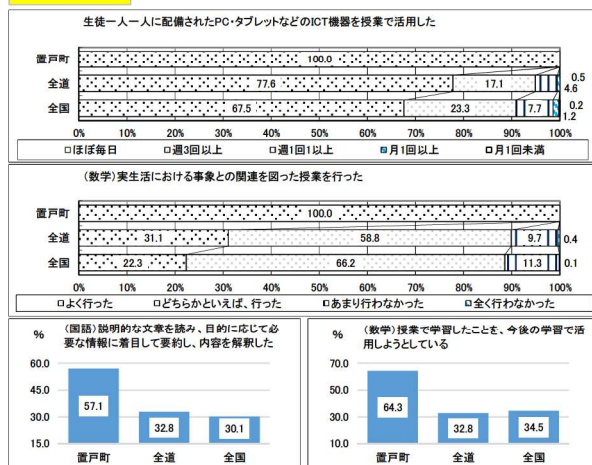


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を毎日使用させたことにより、授業改善が図られ、国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用したことにより、授業改善が図られ、国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱い方に關する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【置戸町の学力向上策】

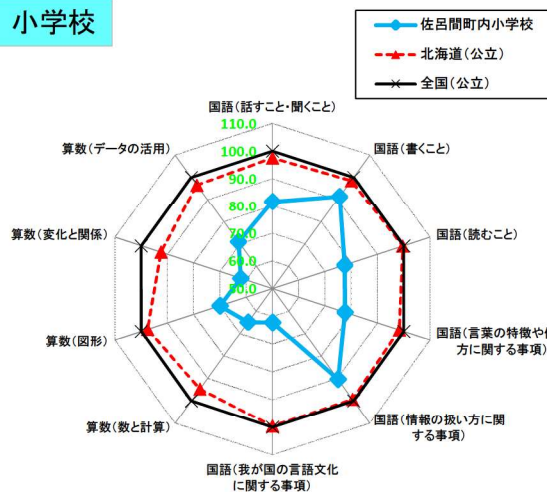
- ◎ 小・中学校で連携した学習規律「置戸スタンダード」の取組の推進
- ◎ 小中一貫教育の一環として、中学校教員による小学校での乗り入れ指導や出前授業の実施
- ◎ 児童の基礎学力の定着に向けた学習支援員の配置
- ◎ 夏季及び冬季休業中における学習サポートの実施
- ◎ 特別支援教育の充実を図るための支援員の配置
- ◎ 外国語教育の充実を図るための外国語指導助手の派遣

■佐呂間町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:28人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

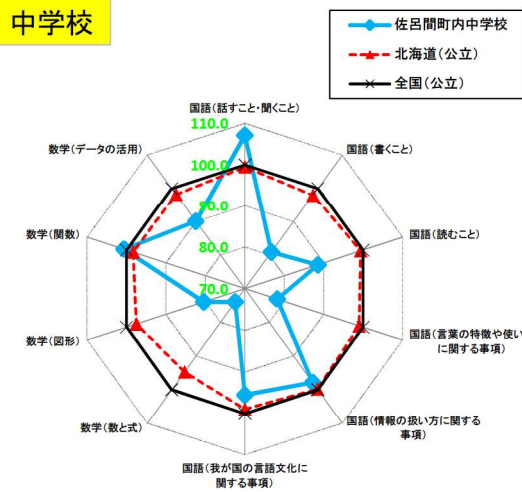
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

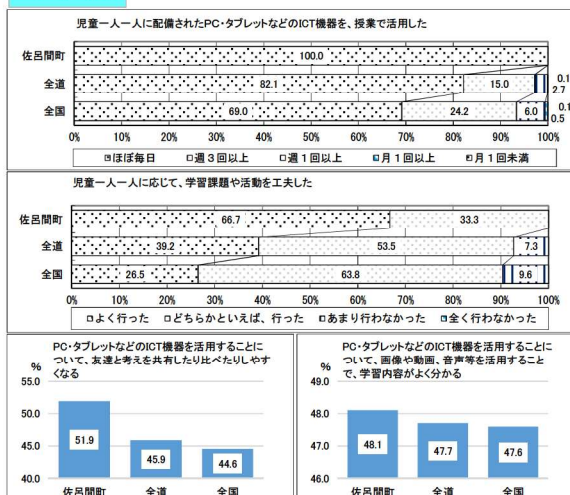


中学校

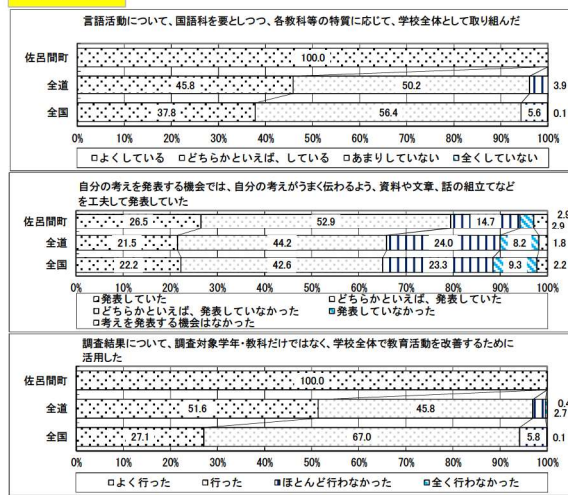


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有しやすくなったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

授業において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

調査結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、授業改善が図られ、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【佐呂間町の学力向上策】

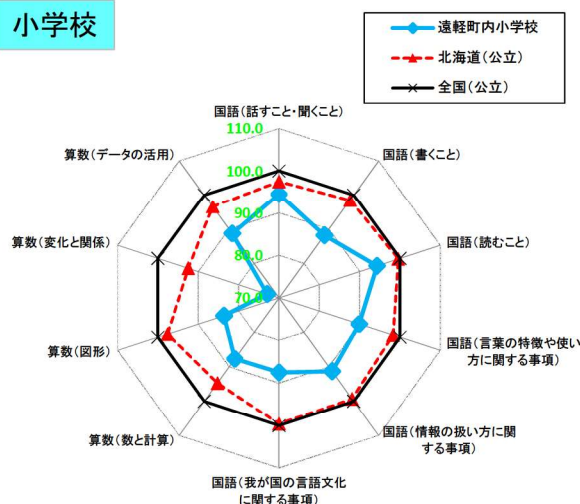
- ◎ タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習の習慣化の取組や、放課後及び長期休業中の補足的な学習サポートの実施、チャレンジテストの活用、学習規律の指導の実施
- ◎ 教員の指導力向上のための教育委員会主催研修の開催、各種研修会への参加奨励及び経費予算付け、指導主事訪問、ICT環境の有効活用
- ◎ 「オールオホーツクで学力向上を！」に基づいた佐呂間町学校運営協議会による小中（高）一貫教育の推進、学校全体での分析結果の共有及び課題認識の共有の取組の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実及び児童生徒の学級満足度アンケートやリーディングスキルテスト（基礎的な読む力を測定・診断するツール）等の活用

■遠軽町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:121人）（中学校数:7校、生徒数:131人）

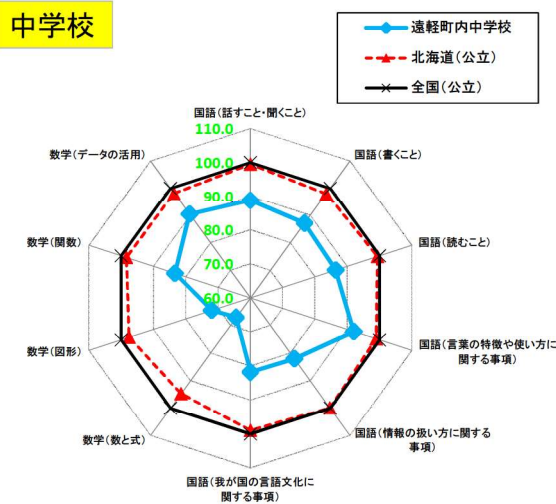
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

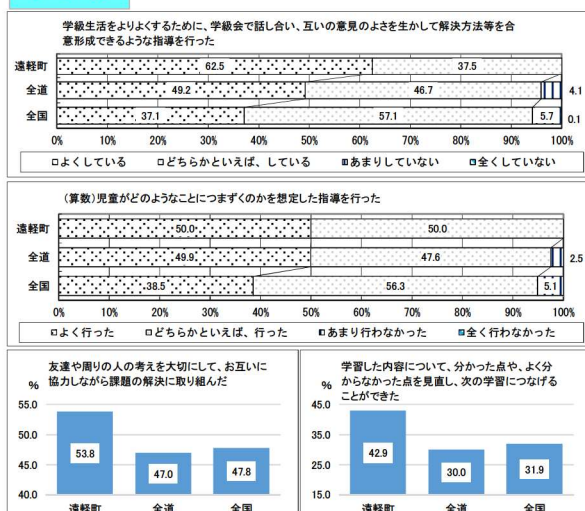


中学校

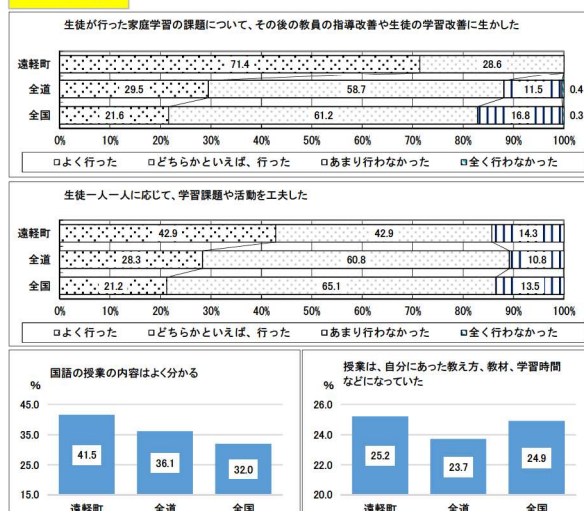


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、友達や周りの考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に係る事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

授業において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

【遠軽町の学力向上策】

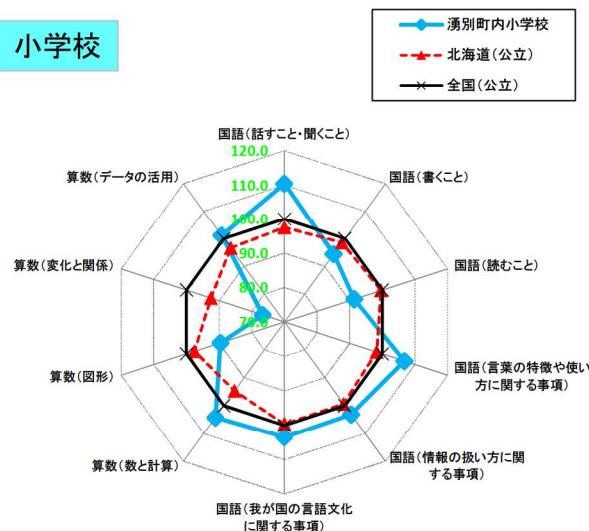
- ◎ コミュニケーション能力の向上と国際理解教育の推進
- ◎ 家庭と連携した学習の習慣化と規則正しい生活づくりの推進
- ◎ 外国語活動における言語や文化に対する理解を深めるための英語指導助手の配置
- ◎ 確かな学力の育成・定着を図るための教育用ICT機器の活用

■湧別町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:48人）（中学校数:3校、生徒数:47人）

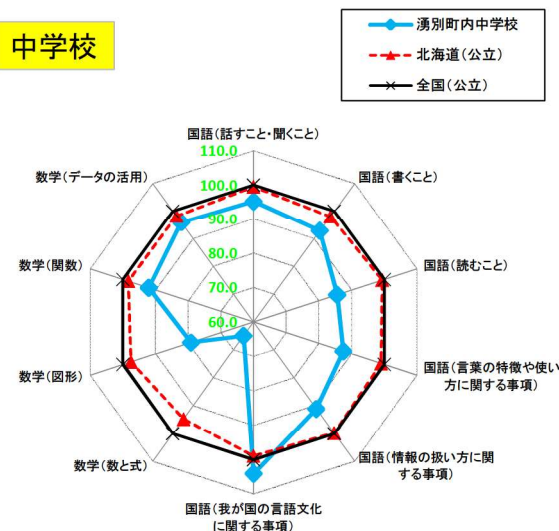
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

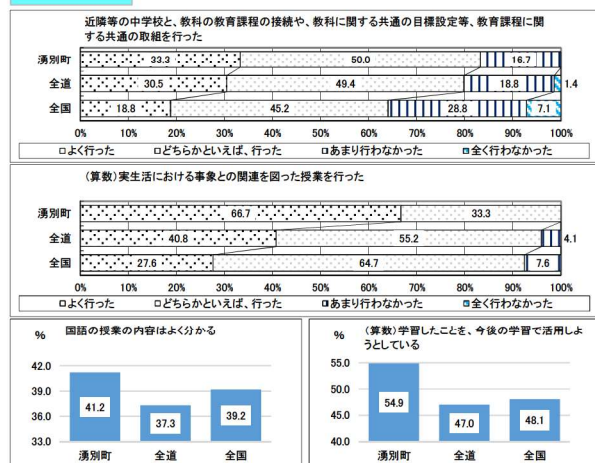


中学校

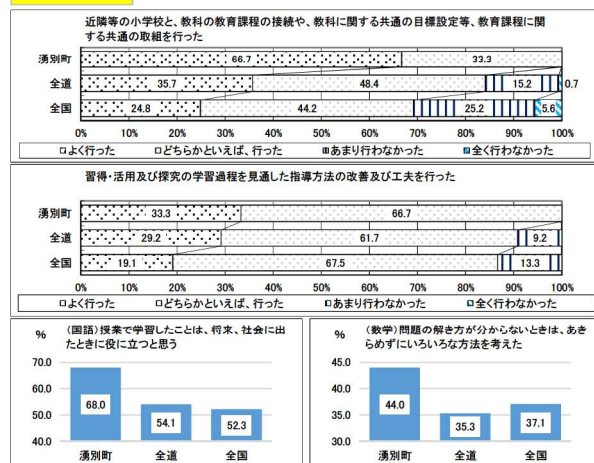


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「数と計算」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

近隣の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

【湧別町の学力向上策】

- ◎ 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- ◎ 全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善や学習習慣の確立
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業の実施やICT端末の効果的な活用
- ◎ 学力向上支援員や特別支援教育支援員等の配置の充実
- ◎ 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- ◎ 学校図書館支援事業による読書活動の推進

【Webページ】



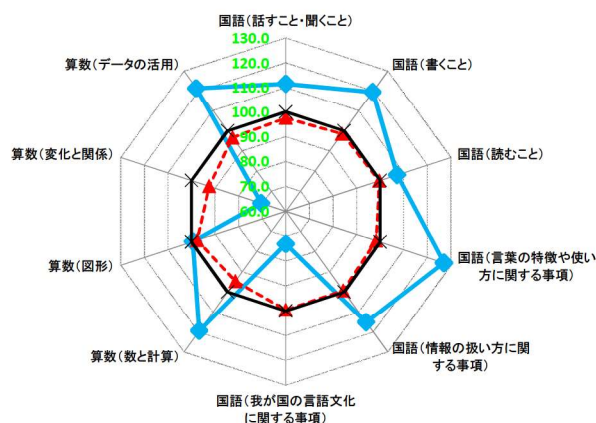
(R6.11掲載予定)

■滝上町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:11人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

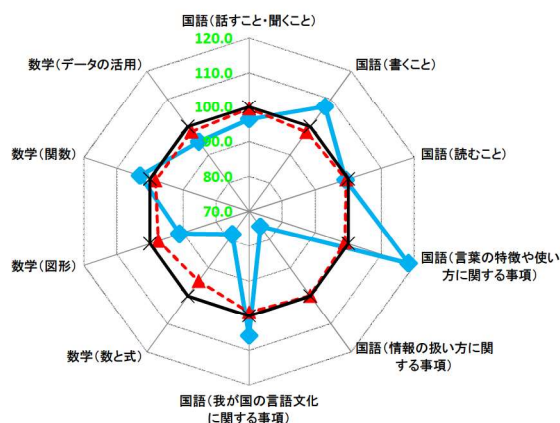
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

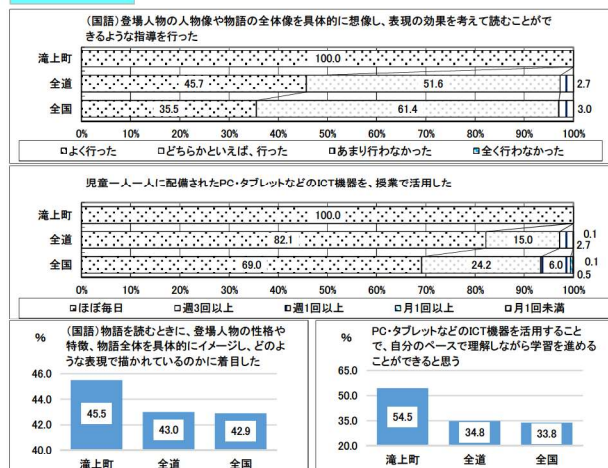


中学校

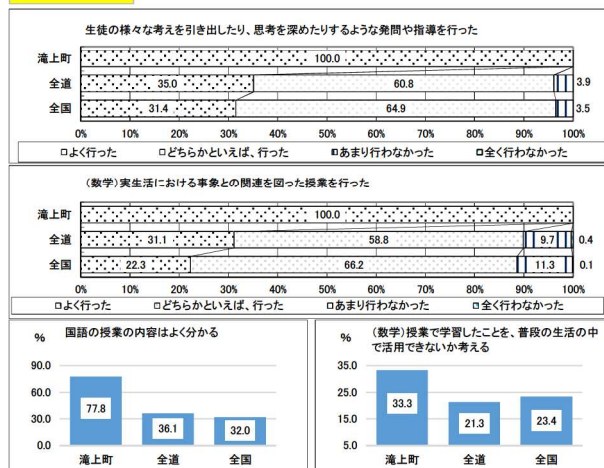


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【滝上町の学力向上策】

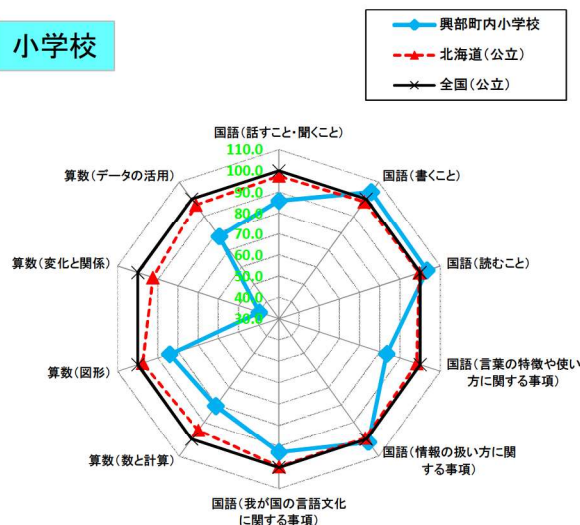
- ◎ 学習意欲の向上に効果的なICT機器等の導入と活用
- ◎ 長期休業中の学習サポートやほっかいどうチャレンジテストの効果的な活用
- ◎ 家庭学習習慣を身に付ける取組の推進
- ◎ 望ましい生活習慣の定着に向けた取組の推進

■興部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

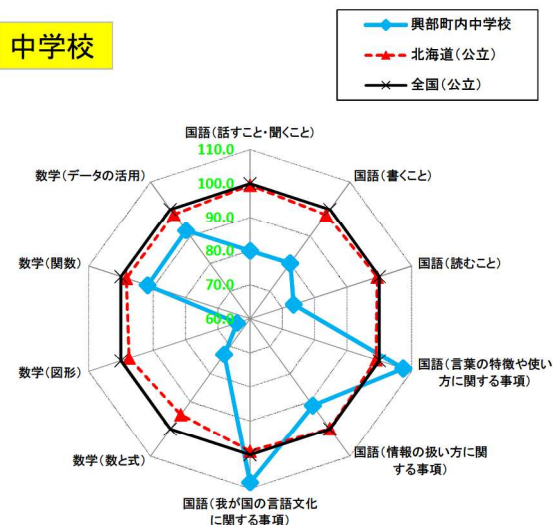
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

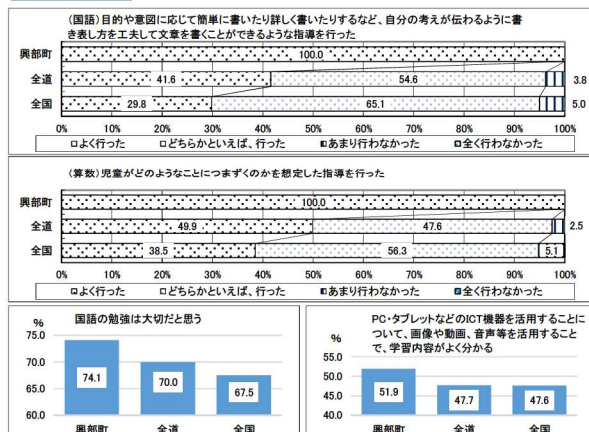


中学校

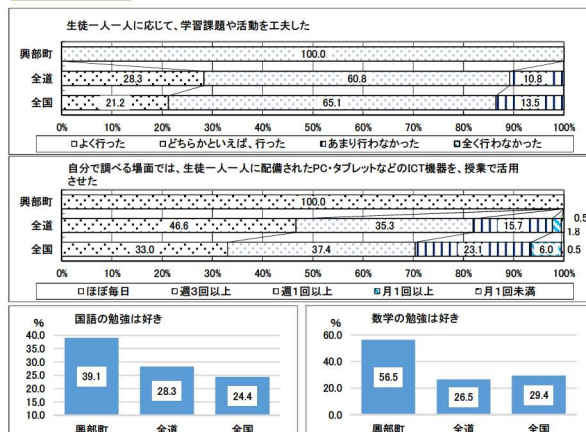


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTを活用した授業改善を推進するとともに、算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくかを想定した指導を行ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かったと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

授業において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、自分で調べる場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は好きと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

【興部町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた授業改善の推進
- ◎ 「家庭学習の手引」を活用した家庭での学習習慣の確立
- ◎ 長期休業等を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- ◎ 1人1台端末や大型提示装置などのICTを活用した授業づくりの推進

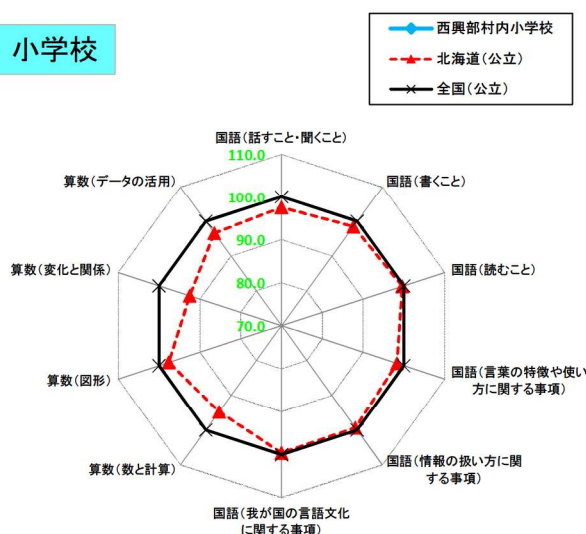
■西興部村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:7人）（中学校数:1校、生徒数:2人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

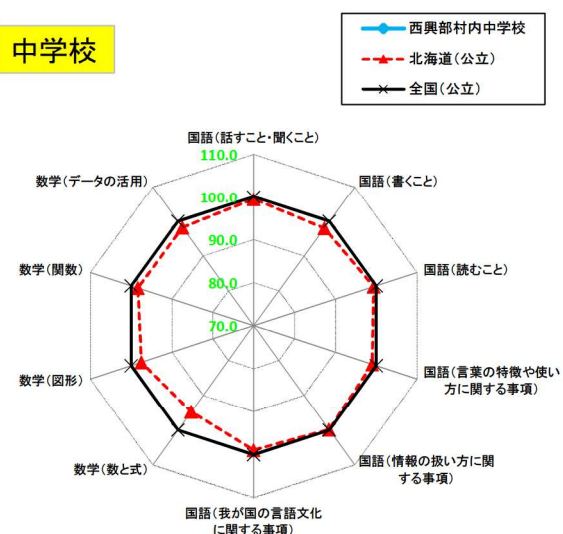
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



中学校

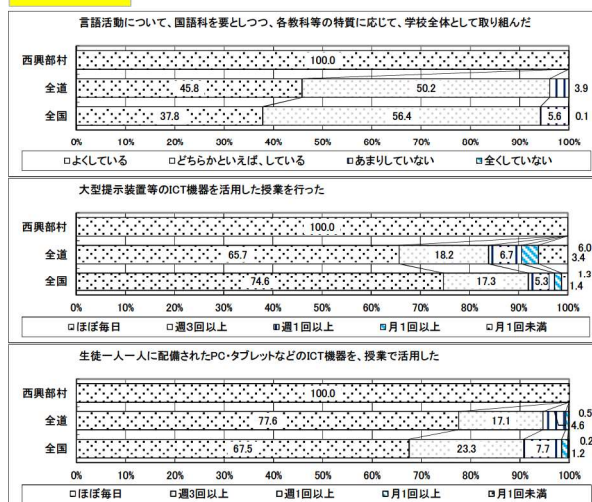


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

授業において、大型提示装置等のICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

授業において、大型提示装置等のICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

【西興部村の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた、個に応じた指導の充実
- ◎ 村教委が中心となったICT環境の整備
- ◎ 主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動や読書活動の充実

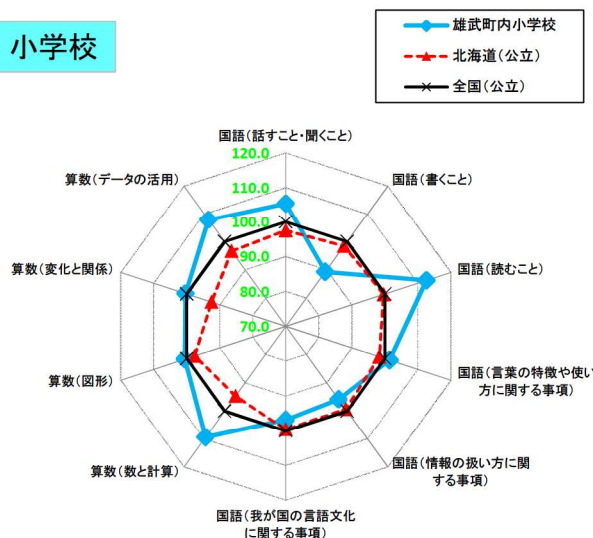
■雄武町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

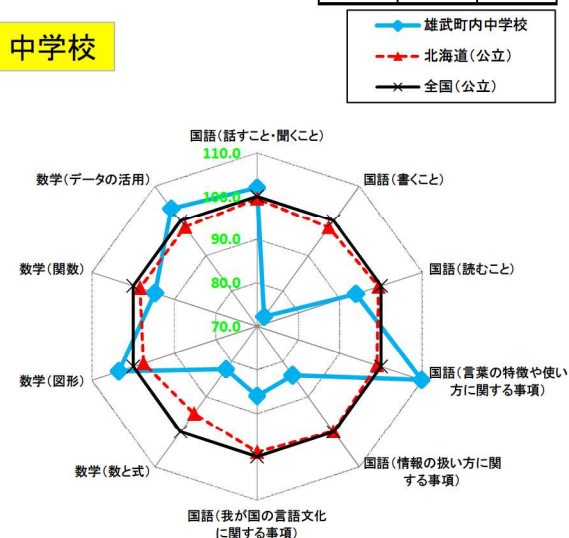
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	54
算数・数学	67	50

小学校

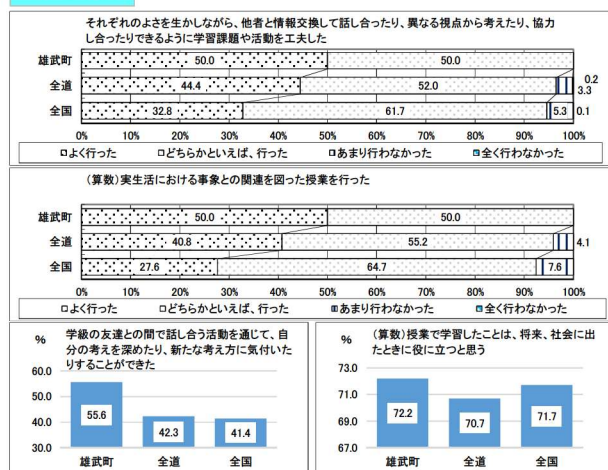


中学校

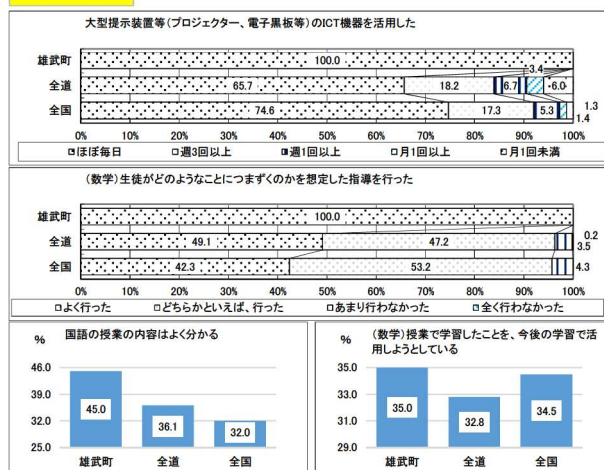


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器の活用をほぼ毎日行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【雄武町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた授業改善の推進
- ◎ ICTを活用した効果的な学びの推進及び家庭学習習慣の確立
- ◎ 学習規律の徹底及び授業のねらいや課題を明確にした問題解決的な学習の充実
- ◎ 教職員の自主的研修活動を奨励する教職員教育振興事業等の推進
- ◎ 読書活動の推進による「自ら学び、自ら考える力」の伸長

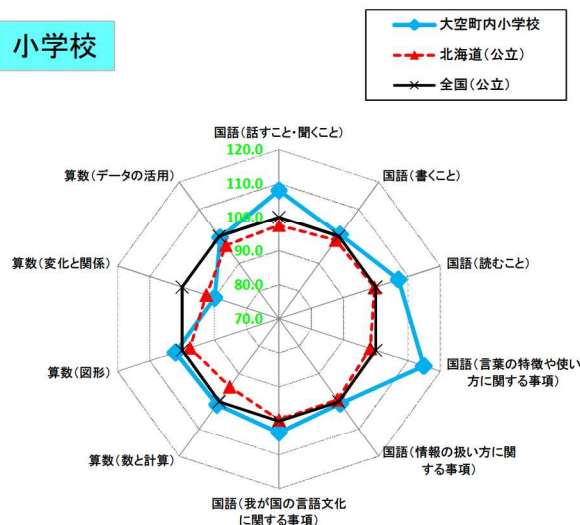
■大空町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:48人）（中学校数:2校、生徒数:53人）

【教科全体の状況】

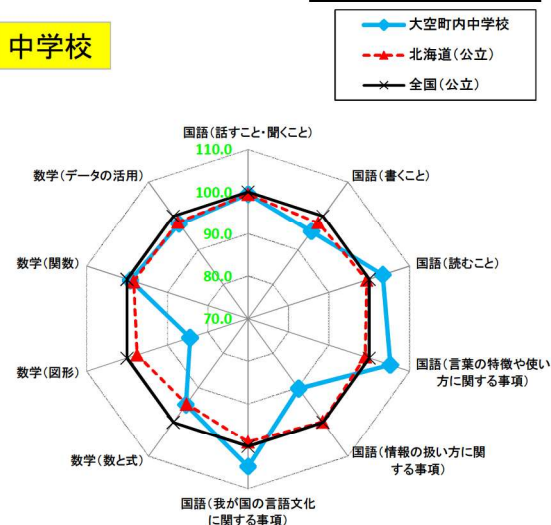
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	58
算数・数学	63	50

小学校

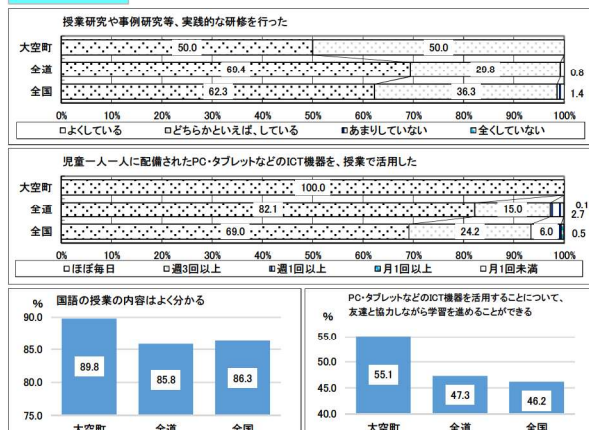


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

校内において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域や事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレット端末などのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、PC・タブレット端末などのICT機器の活用について、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

校内において、生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、数学の勉強は好き」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【大空町の学力向上策】

- ◎ 一人一人に対応したきめ細やかな指導の充実
- ◎ 学校改善プランによる共通・一貫・徹底した学習指導の工夫・改善
- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進
- ◎ ユニバーサルデザインの視点によるスモールステップでの分かりやすい授業づくりの推進
- ◎ 家庭学習など小中一貫した系統的な取組による学習習慣の定着

【Webページ】



(R6.11掲載予定)